

## 元凶としてのロシア：ヒラリーやネオコンの倒錯の論理

【訳者注】P・C・ロバーツは、ヒラリーやネオコンたちの牛耳る米“帝国”を「純粋な悪（unadulterated evil）の支配」と呼んでいる——「ロシア（と中国）はどこまで我慢できるか？」<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160804.pdf> 彼らは彼らで、ロシアが「純粋に悪意をもつ」と信じている（p.5）。我々正常な（と信じたい）者たちは、彼らの集団意識を集団狂気と呼びたくなる。彼らが創りだす途方もないプロパガンダは、半ば自分に信じさせるためではないかと考えたくなる。そういう目を疑うような事例にいくらでも遭遇するからである（本論文のクレイマーやステントなど）。我々が狂気の時代に生きているのは確かだと思われる。

「ウォルフォウィッツ・ドクトリン」とか「アメリカ例外主義」と呼ばれる、アメリカのサイコパス - 帝国主義的思い上がり、一種の宗教として、悪の根源になっているのは確かだと思われる。おそらく我々は誰も、アメリカがこういう国だったとは、つい最近まで考えていなかった。我々は、うろたえるのでなく、大きな歴史的・哲学的課題を与えられたと考えるべきであろう。

Philip Giraldi

September 7, 2016, Information Clearing House



Paul Wolfowitz, 元国務次官補、元世界銀行総裁、ネオコンの代表的人物。

多くの問題が民主党員によって好んで取り上げられて、ドナルド・トランプを誹謗するために用いられている。この男は人種差別主義者だ、頑迷だ、公職には不適格だ、そしてサイコパスだとさえ言われて、それはおそらく、あらゆる皮膚の色や容姿の人々を愛するヒラリー・クリントンとは対照的だということであろう。確かに、彼女はそういう者たちが近所に住まず、アメリカに入国して恩赦を受けた後、忠実に民主党を支持する限りは、彼らを愛するであろう。ヒラリーは、今求めている職を除いて、人々のあこがれるあらゆる政府の要職

を経験した人だが、彼女はトランプとは違って、狂っているといっても、人々が第三世界のどこかに住んでいて、何の抵抗もできない場合にのみ、彼らを殺すという程度である。

ヒラリーの周りに結集した“国家安全保障”の専門家から出される確固とした路線は、トランプはアメリカの安全を脅かす人物だというものである。予備選挙で自党を裏切った人たちの多くは、ネオコン（ネオコンサーバティブ）たちで、この者たちが過去 15 年間に、多くの必要のない戦争を我々にもたらしたことは、ほとんどメディアによって無視されている。それは、アメリカが、いつでも好きなときに、どこへでも軍事介入する専横なる権利を持っているという議論が、一般に受け入れられているのと同じである。

国家安全保障のために確固たる態度をとる最近の発言頭は、ポール・ウォルフォウィッツであり、彼は 8 月 26 日、ドイツの雑誌デア・シュピーゲルのインタビューを受けている。ウォルフォウィッツを覚えておられる読者もあるだろう。彼はペンタゴンで、ドナルド・ラムズフェルドの下にいたナンバー・ツーだった。イラク戦争を強力に推し進めた彼は、イラク人はアメリカの侵略を歓迎するだろう、そしてこの戦争は、今までに現実にかかった 5 兆ドル超以上に、割に合うはずだと言ったことで有名である。この後者の間違った結論に、彼がどうして至ったのか、はっきりわからないが、それはイラクの埋蔵石油を奪って、パイプラインによってイスラエルに輸出するという考えに関係があるかもしれない。それはウォルフォウィッツの名付け親の **Richard Perle** が、かつて流した考えである。

ウォルフォウィッツは決して謝罪しなかった。彼は今、情報組織から得た情報に騙されて、サダム・フセインが大量破壊兵器をもっていると信じたと主張しているが、これは奇妙な話である。彼自身が「特別計画室」を作ったことによって、間違い情報に責任があるからだ。これはペンタゴン内部の独立した組織で、CIA が出してくるものを批判し補うためのものだった。

ウォルフォウィッツの熱意は、ジョージ・W・ブッシュが彼を世界銀行総裁に指名したことによって、報いられた。ところが彼は、彼とともに働いた女性と関係した上に、組織のガイドラインを超えて彼女を昇進させていたことがわかって、辞職させられた。彼はまた一般の管理ミスによっても告発された。決して変わらないものが明らかに存在する。

ともかくも、ウォルフォウィッツは、今度は、さもありませんと思われる、ほとんど防衛請負業者の出資する「アメリカン・エンタプライズ研究所」の、居心地の良い、高収入のポストにつき、最終的に、ヒラリーの 11 月勝利のために運動しているネオコンの団体に加わった。彼らはこれを自分たちの死活問題と考えている。ヒラリーは明らかに、冷酷に侵略的な政策を継続するように予定されている。それは、これまでのネオコン企業とその活発な現金の流

れを、そもそも可能にしてきたものだからである。

しかしもっと現実的には、ヒラリーやウォルフィーが時々訪れる現実世界では、ロシア憎しのバンドワゴンに飛び乗る運動が新たに始まっている。そのクラブに属するためには、モスクワがアメリカの政治に干渉している、と繰り返し叫ばなければならない——それを証明する証拠などない方がよい。驚くことではないが、現実とは全く違っている。ロシアを選挙運動に引き込んで、トランプ打倒に利用しようとしているのは、ヒラリー陣営である。彼らはそれを、メディアのいつものロシア中傷や、いろんな政治演説から拾って使えば、現実には効果があるかもしれないと、ろくに考えもせずにやっている。

ウォルフォウィッツの考えでは、敵と対面するのを避けるのは、指導者の弱点である。彼は、トランプが、世界の危機から明らかに「一歩退く」態勢を取るのは、「オバマを2乗する」ものだと書いている。彼が11月には、おそらくクリントンに投票すると言っていることの主たる理由はそれである。彼はトランプを、安全保障上のリスクだと言っているが、その理由はまさに、「彼はプーチンの崇拝者だから」であり、「ウクライナでのロシアの侵略を考えていないから」である。そうすることによって彼は、ロシアに対して、“やれやれ、今やっていることをやれ”と言っているのだ。これは危険なことだ。プーチンは非常に危険なやり方で振舞っているのだから。」

最近のスピーチで、ヒラリー・クリントンはまた、激しくロシアを攻撃し、自分は今“アメリカ例外主義”を代表する者だと強調した。これは明らかに、ネオコンや、迷っている共和党のタカ派から、もっと多くの仲間を引き付けようとする策略である。ヒラリーはまた、トランプが、成功した Brexit (脱 EU 運動) の先頭に立ったイギリスの Nigel Farage と一緒に舞台に立ったのを激しく非難した。ヒラリーは、ファラージがロシアの従僕であると言って叩く前に、彼を人種差別主義者・セックス犯罪者だと宣言した。彼の犯罪？ それは、番組の作者が何度も出ている、ロシア・トゥデー (RT) テレビに出演したことである。

<http://time.com/4474619/read-hillary-clinton-american-legion-speech/>

<http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/hillary-clinton-nigel-farage-attack-brexit-us-election-donald-trump-2016-democrats-a7210741.html>

そういうわけで、ファラージとトランプは一緒になって、反ヒラリーの大きな右翼共謀団ということになり、その紐を引いているのはモスクワである。彼女は更に、トランプを個人攻撃する前に、プーチンを「この地球的な過激ナショナリズムの元締め」と呼んで、彼は「プーチンに賛辞を積み上げ、プロ・ロシアの政策を考えている」と主張した。そして彼がそういうことをするのは、彼に何か「間違っただころがあるからで、彼は「人種的な怨恨に浸っている、我々の政治の偏執病的縁辺」の一部なのだと主張した。

<http://www.vox.com/2016/8/25/12647810/hillary-clinton-speech-alt-right>

クリントンの選挙運動のマネージャーRobby Mookは、この議論をさらに発展させて、「トランプはクレムリンの傀儡にすぎない」と言い、トランプはプーチンの協力者だという主張を取り上げて、彼を真の **Manchurian candidate** (洗脳された者) であるかのように言っている。これは、かつての神なき共産主義の道具だったが、今では、神聖ロシア帝国が復活して KGB が操っている人に近い。

Justin Raimondo の分析によると、すべての断片を寄せ集めて到達するヒラリーの考え方は——彼女のネメシス (怨敵) ドナルド・トランプは、「巨大な右翼のプロ・ロシア陰謀団」の代表であり、国内的・国際的両面の脅威を構成する敵であり、ヒラリーや、彼女の下請けスピーチ・ライターのつくり出した、あらゆる弓鉄砲の標的となる、敵だらけの環境を生み出している。

クリントンのプーチンの見方は、ロシア政府の、ワシントンと協力して共有の問題を解決したいという、しばしば表明される希望——イスラム・テロへの対処や中東の安定化のような——と真っ向から衝突するために、特別に皮肉なものになっている。プーチンは実は、オバマ大統領の票を火中から拾い出してやったことがある——それは 2013 年、後者がシリアの化学兵器といわれるものに関して、一連のウソをついている現場を押さえられた時だった。

ウソつきのヒラリー・クリントンが、たった一人で、荒野で叫んでいるとしたら、ひどく困ったことになるであろう。しかし彼女は一人ではない。彼女は、ますます増えていくネオコンたち、また彼女自身の党の体制派民主党員からも、支持を受けている。上院少数派リーダーの **Harry Reid** は、FBI に対して、プーチン政府が 11 月の投票箱をひっくり返そうとしているのではないかと、調べるように要求した。その意味は、彼らが選挙結果にサイバー攻撃をかける恐れがあるということだ。

<http://www.politico.com/story/2016/08/harry-reid-russia-election-tampering-227533>

そして更に、恐怖を売りつけて、その役目を果たすメディアがある。8月18日に、明らかにネオコン寄りのワシントン・ポストが、David Kramer と、Angela Stent による、2つの署名入り記事を載せた。クレイマーは、“国際リーダーシップ・マケイン研究所”の主任で、元ジョージ・W・ブッシュの官僚だが、「ロシアは現在、脅威である。アメリカはそういうものとして対処しなければならない」と書いている。元 **GWB** 官僚が、ジョン・マケイン上院議員の価値観を反映する機関の壇上から、健全な政策を説いて聞かせるとは滑稽な話だが、クレイマーは、「ウラジミール・プーチンの下のロシアは、権威主義的で、盗癖をもつ政権であり、我々の価値観、利益、それに同盟国に対し、深刻な脅威を与える。我々はロシ

アの侵略を封じ込め、阻止しなければならない…」と主張した。

<http://www.politico.com/story/2016/08/harry-reid-russia-election-tampering-227533>

[https://www.washingtonpost.com/news/in-theory/wp/2016/08/18/russia-is-now-a-threat-the-u-s-should-treat-it-like-one/?utm\\_term=.1fa93afb86cd](https://www.washingtonpost.com/news/in-theory/wp/2016/08/18/russia-is-now-a-threat-the-u-s-should-treat-it-like-one/?utm_term=.1fa93afb86cd)

[https://www.washingtonpost.com/news/in-theory/wp/2016/08/18/there-will-be-no-reset-with-russia/?utm\\_term=.cfdabad6238a](https://www.washingtonpost.com/news/in-theory/wp/2016/08/18/there-will-be-no-reset-with-russia/?utm_term=.cfdabad6238a)

クレイマーは、よく知られたウクライナ、クリミア、それにシリアの例を、プーチンの野獣性の証拠として引いている。しかし彼の説明は奇妙に一方的で、ロシアは常に変わず純粋に悪意があり、すべての犠牲者とされる者たちは、平和愛好者で高邁な民主主義を求める者たちであるかのようである。このような考え方はもちろん馬鹿げている。プーチンは現実主義者、国家主義者であり、自国の限界をよく知っているが、しかし自分の純粋な利益は断固として守ろうとする人である。ヒラリー・クリントン大統領も、同じように聡明であってほしいものだ。

2つ目の署名入り記事筆者ステントは、ジョージタウン大学のユーラシア・ロシア・東欧研究センターの所長という肩書だが、この人はロシアが、「ユーロ-アトランティックの地球的な仕組み」の中に融合しようとせず、一方で、アメリカの「平和的で、ルールに基づいた、冷戦後の秩序創造への参加」を「妨げている」と言って非難している。

私は、ステント女史がこれほど明瞭に言及している最近の歴史の一部を、見落としていたに違いない。おそらくそれは、西側と西側の同盟寡頭政治家によるロシアの略奪という報道や、より最近の、米議会やホワイトハウスによる、この国への内政干渉という報道によって、私が何か誤解していたせいであろう。彼女はまた、アメリカが1991年以来、アフガニスタン、イラク、シリア、リビアを侵略し、イエメン、パキスタン、ソマリアにも干渉することによって、ロシアよりはるかに悪質な国際的な記録を持っていることを、ご存じないようだ。そして、そうだ、NATOをロシアの玄関口にまで拡大させた、挑発的と思える、あの小さな問題もある。また反ロシア感情を直接かきたてるジョージアやウクライナの問題もある。

ステントは、モスクワが、本当にアメリカのコンピューターをハッキングしたのか、また大統領候補者について迷惑な情報を発表したのか、知らないと認めている。しかしそれにもかかわらず、彼女は、ロシアが「我々の民主的な選挙のやり方の正当性について、疑いを撒きちらす意図を明らかにもっている」と自信を示している。——どうしたらいい？ プーチンに心を入れ替えさせる試みは、やめるがよい。そのかわりに、「ロシアによる近隣諸国の不安定化の試みを阻止するために」軍事力を増強するのを、考え直すべきだ。

“マケイン・センター” や、ジョージタウン大学で出されるコーヒーには、どんな興奮剤が入っているのかと考えたくなる。しかし、本当はそれはどうでもよいことで、この世界のウォルフォウィッツ、クリントン、クレイマー、ステントといった類の者たちは、すべて基本的に同じ食べ物を与えられている。彼らにとって、純粋に危険な敵と戦う仕事を与えられるこの世界は、高い価値をもつ物品なのである。唯一の気がかりは、ロシアが、自分に向けられる空疎な誹謗讒言に、本当に心から怒る時があるのではないかということである。そうなった時が非常に危険である。